

「構造化」とは

# TEACCHプログラムとは

子どもの「認知」の偏りを理解し、「認知」の状態に応じた環境（ユニバーサルデザイン）を用意すること

\*足の不自由な人→車いす、視力の弱い人→眼鏡と同じ

1. 「場所」の構造化・・・余分な刺激を少なくし、その場所で何を行うのか、自分の持ち物の場所、おもちゃを片付ける場所等がはっきり分かるようにする（**感覚・記憶**の視点と関連）

Ex. \*棚を布で隠す

\*前面に写真や絵を表示する

\*靴下入れの内側の底に個人マークをつける

\*個人マーク付きの座布団を敷く

2. 「時間」の構造化・・・子どもに分かるスケジュールを示し

どのような活動をどんな順序で行うか明らかにする。

※子どもがそのスケジュールを活用し、それに応じて活動を切り替えていくことが大切（記憶、集中力・思考のくせと関連）

子どもの理解のレベルによって実物・写真・絵・文字などを使いスケジュール提示の数も調整する

Ex. \* 「今日の予定」を写真や絵と文字で表示

（マグネットシートで作ると付け外しが簡単で便利）

\* 年齢が高いクラスには1ヶ月の予定表をはり、少し長めの見通しを持つことも大事

3. 「活動」の構造化・・・「どれだけの量で、どんな内容で、いつ終わるのか、終わった後に何が起こるのか」を分かるように提示する。（記憶、集中力・思考のくせと関連）

Ex. ＊トイレの手順など行動の流れが見て分かるカード

＊色々とやることのある朝や帰りの支度の手順を分かりやすく

＊次の行動と合わせて示す

＊動作を細かく区切って流れや手順をイラストで表示

（発表会などの行事の際はここだけ決めてほしいというポーズに丸をつけるのもいい）

4. 「視覚的」な構造化・・・見て理解する力が強いのが発達障がいの特徴。

その長所を活かし視覚的な手がかりを工夫。

(感覚、記憶・コミュニケーション能力、集中力・思考のくせと関連)

Ex. \*正しい姿勢や態度を絵で示したり、保育者がやってみせる

\* 2つ以上の事も実物を示すと覚えやすい

\* 注目カード

\* 見通しカード・・・話の終わりを予測できるようなカード  
タイマーで残り時間を伝えてもいい

\* 本人の意志を発信できるコミュニケーションカード

ワーク1 子どもに合った環境の工夫を探そう

ワーク2、3 (今後意識すべきこと)

# コミュニケーションカード 活用のポイント

1. 双方向で使う（大人から一方的に伝えるツールにしない）
  - ・子どもから伝えたい事を伝わりやすい方法で発信してもらう
  - ・大人から伝えたい事が正しく伝わるように発信する
  - ・互いに伝え合えたことを確認する
2. 理解できる見せ方を心がける

沢山のカードを一度に提示されると理解できない場合も。

その子の数の理解に合わせて提示する

Ex. 3が分かれば3枚、5が分かれば5枚

3. カードからサイン（動作）に発展させる

カードを使うことでサインを覚える子も（ください、嫌です等）